

ちば里山新聞

(第30号)

編集・発行 NPO法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 電話 0438-62-8895
 題字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの委託事業を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています。

「東北地方太平洋沖地震」はこれまでに経験のない甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。共に復興に向けて努力をしていきましょう。

NPO法人「しろい環境塾」、ダブル受賞!!

北総地区を代表する「NPO法人しろい環境塾」が《田園自然再生活動コンクール農村振興局長賞》《第31回緑の都市賞「奨励賞」》を受賞。10月に表彰式が行われました。里山活動に取り組まれている皆様へ大きな励ましとなることでした。



田園自然再生活動コンクール表彰式（東京理科大学）

《田園自然再生活動コンクール農村振興局長賞》では、「日本の原風景である里地里山を今後どう守っていくかが最大の課題である。特に首都圏での担い手をどう確保するかである。その意味でリタイアメントが耕作放棄地を農地に復元する等、地元農家と協力しあつての活動事例は素晴らしい」と高く評価され、今後の活動にも期待大だ。

《第31回緑の都市賞「奨励賞」》は「それぞれの主体がそれぞれの立場で「緑の都市」の実現に向けて何が出来るかを考え取り組んだ成果であります。こうした取り組みが相互に連鎖し、大きな環となり持続可能な社会へと世の中を動かしていくことが望めます。この荣誉ある賞が、この国を緑豊かなものにする“タネ”として全国各地に届き、やがて青々と茂ることを願う次第です。受賞された皆様へのお祝いを含め、審査講評とさせていただきます」と榊山紘一委員長

「田園自然再生活動コンクール」とは

農村地域において、農業者、地域の方々、NPOなどが協力して、農業生産との調和を図りながら取り組んでいる自然環境の保全・再生活動（田園自然再生活動）の中から優良団体を表彰しているもので、平成15年度から環境省等と連携して行っています。また、その成果を広く紹介することによって、農村地域の自然環境に対する国民の理解を深めるとともに、このような活動の拡がりにより、自然と共生する農村づくりを推進することを目的としています。

（農林水産省ホームページより）



緑の都市賞表彰式（日比谷公会堂）

「森のチカラで、日本を元気に。」を復興アクションとして

1 国際森林年の取組概要

- 国際森林年会議とシンポジウムの開催
各分野の方々が、森林・林業に関する様々なテーマで議論。
- 各地をつなぐイベントの開催
「いのちの森づくりリレー植樹」では、約1万人が参加し、広葉樹など約2万5千本を植樹。「市民と森林をつなぐ国際森林年の集い」では、全国15箇所で開催され約3,700人が参加。
- メディア・広報活動
BSフジ「僕たちは森のことをどこまで知っているのか話すテレビ」・BS日テレ「森人」・BS日テレ「森林に生かされて」のTV放映など。
- 国際森林年記念コラボレーション企画
「国土緑化・国際森林年」切手の発売、ナショナルジオグラフィック日本版別冊「森と生きる」の発売、モンベル「2011国際森林年」コラボレーションTシャツの販売、JRA国際森林年記念レース「新緑賞」の開催など。

これらのイベント・行事には、「国際森林年子ども大使」の葉っぱのフレディが参加して、森の大切さをアピールしました。また、本取組に多くの方にご協力いただきましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

※こちらに挙げた取組はごく一部です。詳しくは、林野庁情報誌「Rinya」12月をご覧ください。
(URL) <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/kouhousitu/jouhoushi/2312.html>

2 森のチカラで、日本を元気に。

国際森林年は昨年12月の石川でのセレモニーを皮切りにスタートしました。あれから、早一年が経ちますが、3月11日の東日本大震災の発生により私たちは大きな衝撃を受け、国際森林年も大きな影響を受けました。各界の著名人や学識者などで構成される「国際森林年国内委員会」は、4月開催の第2回会合で「国際森林年が震災復興に役立つ取組にも力を入れるべき」との意見をまとめ、その後、海岸林再生のシンポジウムの開催や国際森林年子ども大使の「葉っぱのフレディ」が被災地への慰問活動など被災地を支援する取組を実施しました。

そして、10月開催の第4回会合で同委員会は「森のチカラで、日本を元気に」という新たなメッセージを出しました。これは、国際森林年で常に訴えてきた「森林の重要性」を国民の皆様にご理解頂くことを願うとともに、震災からの復興に向けた思いが込められています。この思いを具体の行動として実行して頂くために、「人づくり」・「森づくり」・「木づかい」・「震災復興」の4つに分けて行動を提案しています。

今年の漢字は「絆」に決まりました。被災地には多くの方がボランティアとして行動され大きな力となっています。国際森林年で得られた、国民の皆様、特に今までに森と接点のなかった方との「絆」をさらに広げ、具体の行動に取り組んで頂けるよう、「森のチカラで、日本を元気に。」を復興アクションとして呼びかけていきたいと考えています。

林野庁 研究・保全課 森林保全推進室 岸田 周

2011 国際森林年メッセージ

森のチカラで、日本を元気に。

我々一人一人が取り組みたい行動の提案

人づくり

1. 森林や木に親しみ愛する気持ちを育てましょう。

- 幼児から高齢者まで全ての世代の人々に森林体験活動を通じて森林や木と身近に感じてもらいましょう。
- 次世代を担う子ども達に、学校授業や社会教育を通じて「森林・林業・木材産業の知識」、「木づかい」、「森の恵み」の大切さを伝えていきましょう。
- 互恵的な共生の森・山・川を創出するため、国・自治体間の交流を促進しましょう。

2. 森林に関わる文化と技術を伝承、継承、発展させましょう。

- 村営林業などの行事や風習など、森林や山に由来する文化を伝承しましょう。
- 高技術・高付加価値の伝統工芸品・農産物の研究・開発、技術継承を促進しましょう。
- 森林・林業・木材産業に関わっている人や畜産に関わるとする人々の生活圏を繋ぎましょう。

森づくり

1. 世界有数の生物多様性豊かな森林資源を保全し、持続可能な豊かな森づくりを実現しましょう。

- 森林資源を大切にすることから、人と自然とのより深い関わりを築くための、登山の開催・保全を推進しましょう。
- 個人、企業、団体がそれぞれの経営課題において、森林づくりに貢献できる社会の仕組みを構築しましょう。
- 高付加価値を生み出す木材産業の発展を促しましょう。

2. 林業・木材産業などの経済活動を通じて、質の高い森林資源の維持と持続利用を実現しましょう。

- 林業の持続的な発展や林業の活性化を推進しましょう。
- 地域材をはじめ森林の多様な資源を使うことにより、森林の管理や利用を効果化しましょう。

木づかい

1. 地域材をはじめ森林の多様な資源を優先的に使用し、地域振興を促進しましょう。

- 国産・産地に対して正しい情報を発信し、地域材などの地産地消を推進しましょう。
- 安全で地産材に木材生産ができる技術を開発・普及しましょう。

2. 産地だけでなく多様な森林資源を活用したライフスタイルへの転換を進めましょう。

- 地域材などを豊富に利用する文化を醸成しましょう。
- 森林資源を活用した工業製品の伝播と販出を促進しましょう。

震災復興

1. 地域材などを活用して林業や木材産業を創出し、雇用を増やしましょう。

- 安全で安心な地域材を提供することから、そのための木材資源確保の取り組みを推進し、地産地消を推進しましょう。
- 木材のカーボン・フットプリントを減らすことから、エネルギー効率の高い木材利用システムを開発しましょう。
- 復興時に備え木材供給体制の強化を行いましょう。

2. 震災復興に新たな決意で森林づくりに取り組みましょう。

- 震災の創り出した新たな地産地消の機会に契機に森林づくりを進めましょう。
- 生物多様性が豊かで地元住民の生活の豊かとなるような森林づくりを進めましょう。

林野庁 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/2011yf.html> 国際森林年国内委員会事務局 <http://iyf2011.go.jp/>

里山交流会議開催

里山交流会議『Qiball』（きぼーる）

平成23年12月2日

第一部13:00～15:00

（ちばの里山づくり事業の一環として実施）

- 千葉県農林水産部森林課 西野文智
- 特非「ちば里山センター」 理事長 金親博榮
- NPO法人「みんなの森の村」代表 小野塚万人
- NPO法人「森のライフスタイル研究所」
代表 竹垣英信

第二部15:30～18:00

（平成23年度森林づくり国民運動推進事業の一環として実施）

- 林野庁森林整備部森林研究・保全課 岸田 周
- 株千葉銀行CSR推進室 副室長 和田議博
- 株スタジオジブリ イベント事業室
チーフプロデューサー 橋田 真
- 「さんむフォレスト」代表 稗田忠弘



私達はこの1年を「忘れてはいけない」、また「いまだからこそ」を胸に強く抱き、生活してきました。希望や不安のなか、里山活動メンバーは「出来ることに取り組む」という姿勢で活動し続けています。

そんななか、里山を未来に繋ぐ「里山交流会議」が12月2日（金）に千葉市にある＜Qiball＞（きぼーる）で開催。寒風吹く中、県内をはじめ県外からも企業、行政関係者・里山活動関係者・市民・大学生など様々な業種の方が来場。参加者が多く、急遽、会場を広げ、改めて、「里山」への関心、注目度を感じる会議に。

森のスペシャリスト達を講師（講師リスト参照）に招き、映像などを交えた講義を繰り広げて頂きました。

このような交流が、里山と人を繋ぎ、そして“絆”になり、未来への架け橋となることでしょう。

『特定非営利活動法人ちば里山センター』

日本最大級の環境イベントに参加



“Green For All, All For Green”をテーマに掲げた、752社、団体による日本最大級の環境展示会『エコプロダクツ2011』が、東京ビッグサイトで行われました。12月15・16・17日の3日間に渡り、「ちば里山センター」も出展し、〈森林からはじまるエコライフ展2011〉ゾーンにブースを設置。今年は、県内の里山活動団体の活躍をより知ってもらいたく、写真パネルを中心に展示。また、里山スタッフによる干し柿、ゆず、門松も販売され、里山で伐採された”切り株オブジェ”もブース内に設置。

本年度のコンセプト《持続可能な社会の実現》に向けた情報発信の場として、日本全国の企業・団体・研究機関をはじめ、行政・自治体・NPO・NGO・市民グループがオリジナルティにエコを提案。様々なセクターも、皆、ベクトルの方向は同じで環境に配慮し、より良い社会やライフスタイルの実現に向かっている。

来場者数も3日間で181,487人を数え、エコへの期待の高さが伺えた。



『緑の守り人』 イベント情報

2012年は、10年に一度、開かれる”地球サミット”イヤー。世界中で「地球の未来」を考えます。日本でも森のスペシャリストたちによるイベントが目白押しです。自分に合ったイベントを探し、是非、参加してみてください。

特定非営利活動法人ちば里山センター主催及び共催イベント

研修会「未利用間伐材の搬出とバイオマス利用の取組み」

県内の森林には放置されたままの間伐材が多く見られる。採算がとれず搬出されないのが原因のひとつとされている。そこで、農林総合研究センター森林研究所、山武の森再生計画推進協議会、山武市経済環境部わがまち活性課が主導し、林地残材の再生可能エネルギーとして木質バイオマス利用する研究、取組みを進めています。

開催日時 平成24年2月16日(木) 13:00～16:00

会場場所 講演：あららぎ館(山武市塩谷1884-1 電話：0475-89-3630)

現地検討：日向の森(山武市雨坪)

内 容 講演：13:00～14:30

現地検討：15:00～16:00(講演終了後、自家用車乗り合わせで移動)

募 集 先着順30名

3.11 津波跡の海岸林復活植樹イベント (トヨタ自動車環境活動助成プログラム)

《森のライフスタイル研究所》による津波復興プロジェクトです。県内でも津波による塩害で海岸林は枯れてしまいました。独自にそれを伐採、チップ化し、林内に敷き詰め、海岸保安林再生の下準備を行い、今回の植樹となります。6000㎡の海岸に6000本のクロマツやトベラ、マサキを植えるビッグイベントです。”未来に繋げる風景”を取り戻すためにも200名の参加者を募ります。

日 時 平成24年2月25日(土) 10:00～14:00(小雨決行) (集合9:30)

荒天時は2月26日に延期

場 所 山武市蓮沼・殿下海岸

問い合わせ NP0法人《森のスタイル研究所》 TEL03-6427-6369/FAX03-6427-6309

HP <http://www.slow.gr.jp>

里山イベント -海岸松林散策とクロマツ植樹- (三菱UFJ環境財団協力)

震災以来、防災機能としても注目の海岸松林。海に囲まれる千葉県でも数多く見られています。しかし、現状は松食い虫被害で、崩壊しつつあります。そこで再生させるためのプロジェクトが、九十九里浜で行われます。クロマツの大苗を植樹、保植し、実際に松林の”いま”を感じてください。

日 時 平成24年3月3日(土) 12:30～16:00頃

場 所 長生郡白子町中里海岸

講 師 富谷健三

竹内 進(共に森林インストラクター、元千葉県森林研究センター)

お申込み・問い合わせ

特定非営利活動法人ちば里山センター 事務局 TEL0438-62-8895 Fax0438-62-8896

Mail info@chiba-satoyama.net

※詳細については、ちば里山センターホームページをご覧ください。※参加お申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

TEL 0438-62-8895 FAX 0438-62-8896

e-mail: info@chiba-satoyama.net



ちば里山センター